

【評価実施概要】

事業所番号	0572007839
法人名	医療法人 寿光会
事業所名	ぐるーぷほーむ「こさか」
所在地	秋田県鹿角郡小坂町小坂字上前田16番地11 (電話) 0186-30-7250
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成 21年 12月 1日

【情報提供票より】(21年 10月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人, 非常勤0人, 常勤換算7.75人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	A 30,000 B 21,000 円	その他の経費(月額)	理美容・おむつ代実費 水道光熱費600円/日 一般管理費60円/日	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	3	要介護2	2			
要介護3	3	要介護4	1			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	78.1 歳	最低	64 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人寿光会福永医院、田子歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは町の中心部から遠くなく、近隣に保育園や公共施設、スーパーなどがある住宅街に位置している。
ホーム内には、職員の手作りのペーパークラフトなどが沢山飾り付けられているほか、採光も良好であり、音楽も流すなどして、穏やかに過ごすことができる居住環境となっている。
管理者および職員の、サービスの改善にかかわる意欲は極めて高いものがあり、さまざまな課題に真摯に取り組みながら具体的な改善活動を進めている。特に、地域との関わり方においては、自治会行事にも参加し交流を図るなど、優れた実践を行っているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「グループホームだより」の発行について改善課題として提示されていた。その後の活動状況を確認すると、内容の充実した「近況報告書」をご家族に毎月発送して報告しており、優れた実践活動となっている。また、地域との関わりも年々充実してきており、外部との関係の充実という点において改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価活動を通じて把握できた改善課題については、職員間で話し合いながら真摯に改善活動に努めていることが改善活動の状況を調査する中で理解できた。具体的な改善にもつながっており、評価の意義を十分に理解して日々のサービス提供が行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議において、利用者の家族への報告のあり方を検討したり、家族からの直接の要望についても確認するなど、実際のケアに直接反映されるよう検討している。会議の内容に基づいた一連の活動が実際のサービス改善につながっており、ケアサービスと運営推進会議が有機的に関連していることが確認できた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ご家族の意見や苦情については、専用の様式に取りまとめ報告される体制となっている。また、発生の原因に対する分析もなされ、さらに原因に対する是正策や再発防止策についても検討が加えられており、改善につながっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入する中で地域との結びつきが年々深まっている。地域で開催された行事(たんぼ会)には、利用者・職員とともに参加することができ、充実した交流の機会となっている。また、防災に関する情報のつながりや災害時の協力体制などについても徐々に検討が加えられており、今後もますます連携が深められることが期待できる。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「触れあい、支えあい、認めあい、安らげる生活の場」との理念を目指し、日々改善活動に取り組んでいることが確認できた。特に、管理者は現状に満足せず、理念に即し活動するよう努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を共有しながら、日々の改善活動に努めているが、今年度途中からは、障害者の雇用も始め、共生を目指したホーム運営に取り組んでおり、優れた実践といえる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	3年前から自治会に加入し、自治会主催の行事（たんぽ会）にも入居者と職員が参加するなど、交流が盛んである。地元との結びつきが年々強まっていることが確認できる。		ホーム内の情報を地域に上手にPRしていくことができつつある。ペーパー（便り）の発行なども含めて、今後もぜひ地域とのかわりを充実させられるような取り組みに期待したい。
J					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価も着実に実行しているほか、外部評価の結果を職員間のミーティングなどを踏まえながら、実際の改善につなげている。具体的には、避難路の手すりの増設などの改善の実施が挙げられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を通じて提案された意見を真摯にとらえ、例えばご家族への報告様式を修正するなど、会議をサービス改善に効果的につなげていることが確認できた。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外にも包括支援センターや行政担当者との連携を図りながらサービスの向上に取り組んでいる。個別の具体的な利用者の支援に関しても連携が取れていることが確認できた。</p>		
<p>4.理念を实践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理は行っていないが、月々の利用料請求に合わせ、ご家族への報告専用様式（近況報告書）を活用しながら情報提供を行っている。また、利用者の状況変化に応じた随時の連絡も行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議には、ご家族が交替で出席する形をとるよう努めており、その中での意見をサービス改善につなげている。苦情も同様に、ただ受け付けるだけでなく、改善につなげる努力を行っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は最小限に抑えられており、利用者への影響は少ない。また、入れ替わりに際しても職員及び入居者の不安が軽減できるよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部・外部研修の報告文を回覧したり、法人内部の研修会に職員を派遣したりしながら職員教育を行っている。また、資格取得に向けた法人内部の勉強会を開催するなど、優れた取り組みを行っている。</p>		<p>改善活動を進めていく過程において、チーム内のコミュニケーションや役割分担を重視しながら、組織全体の力量が高まるよう、日々の業務を通じた職員教育について一層意識して取り組むことを期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人でもう1か所グループホームがあり、そのホームとは法人内部で同じ部署として位置付けられている。したがって、日頃から十分に情報交換が図られている。</p>		<p>県グループホーム協会には加入しているが、秋田市まで出向くのがなかなか難しい状況もある。鹿角市・鹿角郡のホームは一樣に同じニーズを抱えていると思われるため、地域のホーム間の相互の成長を促進するべく、ネットワーキング活動などにも今後期待したい。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に伴う環境の変化が、利用者に影響を及ぼすことが懸念されたケースにおいて、短期入所を活用しながら徐々に馴染めるよう配慮するなど、優れた実践に取り組んでいることが確認できた。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員間で「利用者と過ごす時間を大切にする」という意思統一が図られており、利用者との触れあいを大切にしていることが活動を通じて確認できた。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用前の生活歴やサービスに対する本人の意向などを、面接を通じて的確にとらえている。また、介護計画の更新においても再確認をして、利用者の意向の把握に努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の更新に際しても、職員間の意見交換を踏まえた上での計画となるよう配慮して取り組んでいる。月1回の定例会議の際に検討していることを確認できた。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な要介護認定の更新に伴う介護計画の見直しは勿論のこと、急激な状態変化等に伴う介護計画の変更に際しても、ご家族等とも意思疎通を図りながら見直しを行っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居に際して、事前にショートステイを活用するなど柔軟な対応を行っている。また、現状のサービス内容に満足せず、認知症ケアに対するより専門的な対応についても、今後の課題として認識し検討している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ病院を優先して考えており、利用者と家族の希望を確認して、医療機関への受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	充実した医療連携の体制を敷いているほか、終末期に関するホームの対応方針も明確に文書化され、共有できている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法に則った取扱いを事業所内で行っている。また、実際に訪問した際にも、居室の引き戸に配慮したり記録物等も保管が万全であるなど、プライバシーを損ねるような状態ではなかった。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重した入浴の声掛けをはじめ、日中の過ごし方もその日の入居者の状態や希望に合わせた支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食事の支度や後片付けを利用者と共に行っている。後片付けの際にはエプロンを着用していただくなど、利用者が的確に活動目的を意識できるよう配慮していた。調査当日は、食事の下ごしらえ(もやしの髭抜き)を皆で行っていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴に関しては、週2回以上入浴できるよう声掛けしているが、入浴を好まれない場合にはその翌日に入浴していただくなど、利用者にも無理強いしないよう努めており、柔軟な支援体制を敷いている。利用者によっては夜に入浴する方もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除の役割を好まれる利用者には清掃用具をご本人の見えるところに置いて安心できるようにし、戸惑いをなくしている。また、一人ひとりの生活歴を踏まえながらも現在の意欲を尊重し、あくまでも利用者を主体とした関わりに努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩や一時のドライブなどの活動を行っている。スーパーに寄った際には、自分でお金を使うことができるよう支援している方もいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	身体拘束に関する指針を事業所内でとりまとめ、拘束の弊害などを共通理解している。避難路の一部は簡易的な施錠がなされているが、玄関アプローチは自由に開放されており、鍵をかけないケアが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>事業所内でマニュアルを定め取り組んでいる。避難訓練も今年度すでに2回実施した。緊急連絡網も整備されているほか、現在は地域との協力関係についても検討しているところである。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の摂取状況等が確実に記録され、利用者一人ひとりの状態が確認されている。医療連携体制を敷いている中で、食事摂取状況の変化や体重の変化などにも随時対応できる体制にある。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングが吹き抜けとなっており、採光も明るく居心地が良い。トイレの表示も分かりやすいほか、その他の共用空間も生活感にあふれた家庭的な雰囲気となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は廊下から室内を伺うことが出来ないようプライバシーが守られる造りになっている。また、入居前に使い慣れたものを持参してもらするなど、利用者の個性に応じた居室空間となっている。</p>		

は、重点項目。